

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア I・准教授
氏名 Name	小西敏夫
専門分野 Academic Field	朝鮮語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	釈譜詳細、月江千江之曲及びその原典における言語表現の違いについて
<p>1449年に刊行された『月印釈譜』の第12は、『法華経』の巻2「方便品」を朝鮮語に訳したものである。『法華経』は、初期大乘仏教経典『サッドルマ・ブンダリーカ・ストラ』が漢訳されたものである。この『法華経』は、1463年に刊行された『法華経諺解』においても、朝鮮語に訳されている。すなわち、『法華経』の「方便品」の朝鮮語訳は、『月印釈譜』第12と、『法華経諺解』巻2の二つの文献に現れている。</p> <p>今年度は、『法華経』の「方便品」の朝鮮語訳が、上の二つの文献において、どのように異なった言語表現として現れているかに注目した。『法華経諺解』巻2は、『法華経』の「方便品」を忠実に直訳したものであるのに対し、『月印釈譜』第12の方は、「方便品」をすべて翻訳したものではなく、ところどころ省略されている部分がある。また、『法華経諺解』第2の方では、原文である『法華経』の漢字語がそのまま使われているのに対し、『月印釈譜』第12の方ではそれを固有の朝鮮語に訳しているものが多かった。たとえば、『法華経』や『法華経諺解』第2では「未曾有」、「未来世」、「果実」となっているものが、『月印釈譜』第12の方では、「昔になかったこと」、「まだ来ていない世の中」、「くだもの」などとなっているのである。しかし、逆の場合もあり、『法華経』と『月印釈譜』第12では「天」、「長夜」、「国邑聚落」などの漢字語で現れているものが、『法華経諺解』巻2の方では「そら」、「ながいよる」、「国や郡や村」などの固有語で現れていたりもする。量的には前者の方がずっと多く、『法華経諺解』巻2の方が、『月印釈譜』第12よりも、原文である『法華経』を忠実に直訳したものであると断言できよう。</p> <p>また、『法華経』の原文の漢字語が『法華経諺解』巻2や『月印釈譜』第12では別々の固有語に訳されている場合もある。たとえば、『法華経』の「今」、「必」、「作是思惟」が『法華経諺解』巻2では「いま」、「かならず」、「この考えをするが」となっているものが、『月印釈譜』第12では「きょう」、「まさに」、「おもうに」と訳されているのである。それから、同じ固有語に訳されていても、2つの文献で表記が異なっているものも見受けられる。さらに、用言の否定表現が、朝鮮語には長い形と短い形があるが、『法華経諺解』第2の方では長い形の方が現われるのに対し、『月印釈譜』の方では短い形の方が現われていた。</p> <p>これらのことをどのように考えればよいか。『法華経』は、『月印釈譜』の第11、13、14、17、18にも訳されており、その部分に対応するものが『法華経諺解』にも存在する。今後は、それらの文献も読んでいき、上に生じた疑問に対する答えを見つけていきたい。</p>	